



岐阜大学 吉田和弘学長が「日印経済フォーラム」に出席

7月2日



2026年7月2日、インド・ニューデリーで開催された「日印経済フォーラム」に、岐阜大学の吉田和弘学長が出席し、小山博之グローバル推進機構長、西津貴久応用生物科学部長も参加しました。本フォーラムは、日本とインドの経済連携強化を目的として開催され、両国の政府関係者や企業関係者が参加しました。会議には高市早苗内閣総理大臣とナレンドラ・モディ首相も出席し、今後の日印協力の方向性について意見が交わされました。

岐阜大学は、本フォーラムで日印両国から唯一参加・登壇した大学として注目を集めました。吉田学長は、インド北東部地域（NER）の産業バリューチェーン構築をテーマとするセッション4に登壇し、岐阜大学とインド工科大学グワハティ校（IITG）との15年以上にわたる連携の成果を紹介しました。両大学は食品工学や機械工学、人工知能などの分野で国際共同教育を推進しており、2019年には日印初かつ唯一のジョイント・ディグリープログラム（JDP）を開始しました。現在は社会人向けのマイクロクレデンシャルの開発にも取り組んでいます。

また、2026年3月にグワハティで開催した国際シンポジウムを通じて、北東インドの20大学から成る連携体を設立したことを報告しました。さらに、岐阜大学とIITGが日本と北東インドを結ぶ架け橋となり、大学、産業界、州政府が連携する共創エコシステムの構築を目指す構想を示しました。この取り組みは「岐阜大学-IITGモデル」と位置付けられ、半導体、航空宇宙、再生可能エネルギー、農産加工、ライフサイエンスなどの分野で地域発展への貢献が期待されています。

質疑応答では、吉田学長は「大学連携を起点とする日印の深い交流の形成が更なる成長の起爆剤となる」と述べ、人的・学術的交流の重要性を強調しました。岐阜大学は今後もインドをはじめとする海外機関との連携を深め、教育・研究・人材育成を通じて地域社会と国際社会への貢献を目指してまいります。



写真提供：内閣広報室



写真提供：ジェトロ



岐阜大学シンポジウム・GU-GLOCALシンポジウム2026

『幸せのを見つけ方 — AI時代に、自分で選ぶ力と世界とつながる力を育てる —』を開催

7月27日

2026年7月27日、岐阜大学グローバル推進機構は、岐阜大学シンポジウム・GU-GLOCALシンポジウム2026『幸せのを見つけ方 — AI時代に、自分で選ぶ力と世界とつながる力を育てる —』を本学講堂で開催し、学内外から374名（対面参加：280名、リアルタイム配信：94名）が参加しました。

はじめに、カリフォルニア大学サンディエゴ校のウリケ シェーデ教授が『日本の隠れた強み—新たなバランスとレジリエンスに向けて』と題して特別講演を行いました。シェーデ教授は、ハーバード・グロース・ラボの「世界の製品複雑性ランキング」を示し、日本が高度な生産技術を持ち世界のものづくりに欠かせない存在である一方で、その強みを日本自身が十分に自覚していないと指摘しました。そして、自らの強みを見つめ直し経済成長だけでなく社会の安定や人の幸福も大切にする、日本社会に合った「優しい資本主義」について語りました。

特別講演後には、シェーデ教授に加え、脳科学者で文筆家の茂木 健一郎客員教授とリム リーフ副学長（国際展開・多様性・ジェンダー（男女共同参画）（副）・人権・図書館（副）担当）が登壇しディスカッションが行われました。シェーデ教授が日本に興味を持ったきっかけから、関心のある分野を深く学ぶことや、異なる文化に触れたり、人と出会うことが、自分自身の強みを見つけるきっかけにもなると話が広がり、「AI時代に大切なのは、人との出会い（deAI）である」という一言が、会場を沸かせました。





Spring School Program 2026を開催

3月2日～14日

グローバル推進機構では、ジョイント・ディグリープログラム (JDP) を共同設置しているインド工科大学グワハティ校 (IITG) と連携して、全学を対象に短期派遣プログラムのスプリングスクールプログラムを提供しています。2026年3月2日から3月14日にかけて第5回スプリングスクールプログラムがIITGにて開催され、30名の応募の中から選抜された本学学生10名が参加しました。

初日である3月2日には、スプリングスクールプログラム開講式が執り行われました。期間中には、アッサム州を代表する国立公園見学や民俗博物館などの見学を通じて、多様性に富むインド文化を学ぶ機会が提供されたほか、インド国内で人気のある菓子等を製造する工場を見学しました。学内では、デザイン学科での粘土細工のワークショップや、IITGでのJDP関連学科を中心としたラボツアーが連日開催されました。また、3月9日と10日には、岐阜大学と共同開催のジョイント・ディグリーシンポジウム2026に参加しました。2週間という短い期間にも関わらず、IITGおよび北東インドの社会・文化を余すところなく学べるプログラムが提供されました。また、本プログラムを通じて現地学生との交流も深めました。



海外への留学

海外留学フェア2026春を開催

4月15日

留学に必要な語学力や岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供および留学の促進を目的として、「海外留学フェア2026春」を開催しました。

当日は本学の留学プログラムや奨学金支援制度に関する説明、ETS Japan合同会社および公益財団法人日本英語検定協会から、英語能力試験 (TOEFLおよびIELTS) の概要について説明がありました。

さらに、2週間から1か月の短期留学 (短期研修プログラム、学部等派遣プログラム) や半年から1年間の長期留学 (ジョイント・ディグリープログラム、交換留学) などにより留学した学生から、留学経験に基づく発表を行いました。留学を経験して、間違いを恐れず伝えようとする姿勢や、自分から積極的に行動することの大切さ、多様な文化や価値観への気付きがあったこと等、留学を通じて成長した姿が伺えました。

また、参加者は各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、フェア終了後には個別質問をする等、留学への関心の高さが感じられました。



2026年度 海外渡航時の危機管理オリエンテーションを開催

6月24日

留学や海外旅行を予定している学生・教職員等を対象に、「2026年度 海外渡航時の危機管理オリエンテーション」を開催しました。本オリエンテーションは、海外での事件・事故の防止や健康管理に関する知識を身に付け、危機管理意識の向上を目的として実施しているものです。

当日は岐阜大学保健管理センター長による渡航前の予防接種や海外での健康管理に関する講演が行われました。また、海外留学生安全対策協議会 (JCSOS) 元理事の服部氏からは、危機意識の重要性や具体的な安全対策について講演がありました。

さらに、東京海上インテリナショナルアシスタンス株式会社の松本様からはJ-TASについてのご案内があり、株式会社東京海上日動パートナーズ東海北陸の松野様より、学研災付帯海学留学保険に関するご説明がありました。参加者は熱心に耳を傾け、海外渡航に向けた安全対策への理解を深めました。



海外で学ぶ



医学部看護学科
丸山 陽菜子



カナダ

カナダで広がった医療の視野

私は5週間、カナダのアルバータ大学でEFN (医療英語) プログラムに参加しました。

現地では、アルバータ大学病院や看護学部の実習室を見学し、毎日医療英語を学びました。また、日本とカナダの看護師の役割や医療制度、文化の違いについて理解を深めることができました。午後には現地学生との交流やカーリング、老人ホームなどのアクティビティに参加し、多様な価値観や文化に触れました。休日にはホッケー観戦や観光も楽しみ、実践的な英語力だけでなく、異なる文化を大切にすることの大切さを学んだ、充実した5週間となりました。



サマースクール 2026

6月17日～7月15日

2026年6月17日から7月15日にかけて、本学主催によるサマースクールを開催し、学術交流協定校であるノーザンケンタッキー大学（米国）、南フロリダ大学（米国）、シーナカリンウィロート大学（タイ）より、計8名の学生を受け入れました。本サマースクールでは、昨年同様、日本語学習に加え、日本文化に触れる体験型プログラムを実施し、犬山市（犬山城見学、城下町散策）、関市（刃物ミュージアムおよび日本刀鍛冶の見学、刃物会館での刃物砥体験）、および美濃市（美濃和紙の紙すき体験、うだつの上がる町並み散策）を訪問しました。

郡上八幡国際友好協会の協力のもと実施した3泊4日の郡上プログラムでは、ホームステイや学校訪問をはじめとする様々な地域交流・文化体験活動を行いました。ホストファミリーとの交流を通じて暮らしや文化に触れる貴重な機会となり、最終日には別れを惜しむ姿も見られるなど、受入学生にとって印象深い経験となりました。

また、学内では一般学生とともに、能楽（能・狂言）の鑑賞や七夕イベントへの参加も行いました。学生交流活動では、学生サポーターが受入学生とともに岐阜市内を探訪し、最終日の成果発表に向けたテーマ選定から発表準備までを支援しました。発表資料の作成や日本語表現に関する助言を行い、受入学生の主体的な学びを支えるとともに、学生同士の交流を深めました。



日本語・日本文化教育センター(日文センター)の取組

郡上踊りワークショップを開催

5月13日

2026年5月13日、日本語・日本文化教育センターはユネスコ無形文化遺産である「郡上踊り」のワークショップを開催しました。当日は、14か国・地域から約30人の留学生が参加し、日本の伝統文化を体験しました。

ワークショップに先立ち、美濃市の着付けグループの協力により浴衣の着付けが行われ、留学生たちは浴衣姿で日本文化を楽しみました。その後、郡上市から招いた2名の講師の指導のもと、郡上踊りの代表的な演目である「かわさき」と「春駒」を体験しました。参加者は手や足の動きを学びながら熱心に踊り、日本の伝統芸能への理解を深めました。

最後には記念品や手ぬぐいが贈られ、「実際に郡上で踊ってみたい」「難しかったが楽しかった」といった感想が寄せられました。本ワークショップは、留学生にとって日本や岐阜の文化に触れる貴重な機会となりました。



能楽(能・狂言)ワークショップ

7月8日

2026年7月8日、日本語・日本文化教育センターは能楽（能・狂言）ワークショップを開催し、6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む約30名が参加しました。本センターでは2005年度から毎年、プロの能楽師を招いたワークショップを実施しています。

今年は、能の講師として観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生、狂言の講師として大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生と山口耕道先生を迎え、能楽の魅力についてご指導いただきました。

ワークショップでは、仕舞「岩船」の実演をはじめ、能楽の歴史や楽器の解説、謡「高砂」の稽古、能と狂言で使用される面の違い、狂言の「笑い」の表現などについて学びました。また、狂言「寝音曲」と能「安達原」の鑑賞や能装束の紹介も行われ、参加者は能楽の奥深い世界を体感しました。当日は英語を交えた説明も行われ、留学生にとって本格的な能・狂言に触れる貴重な機会となりました。終了後も講師へ熱心に質問する姿が見られ、日本の伝統文化への関心の高さがうかがえました。



岐阜大学で学ぶ



日本語・日本文化教育センター
ガウム ルイス ジュリアン



ドイツ

岐阜で過ごした交換留学生としての日々

日本の地方で交換留学生として暮らすことは、私にとって本当に忘れられない経験です。自然がとても豊かで、時間があるとよくハイキングやサイクリングに出かけ、山や田舎の景色を楽しんでいます。

日本での学生生活はドイツとはかなり違いますが、その違いも含めて楽しんでいます。ドイツではパーティーやナイトライフを楽しむ学生が多いのに対し、日本ではまた違った形で友人との時間を過ごしています。

岐阜ではたくさんの友人ができました。みんなでカラオケに行ったり、新しい場所を訪れたりして楽しい時間を過ごしています。こうした出会いや経験のおかげで、私の留学生活はとても充実した、特別な一年になっています。





インド工科大学グワハティ校でのシンポジウムで北東インドとの新たな協働の枠組みに参画

3月9日



2026年3月9日、インド北東部アッサム州のインド工科大学グワハティ校(IITG)で開催された「グワハティ JDP シンポジウム」に、吉田和弘学長、リム リーフ副学長、小山博之グローバル推進機構長らが出席しました。シンポジウムには日印双方の大学関係者、政府関係機関、産業界関係者など約190名が参加し、北東インドを軸とした国際共同教育や産学連携の発展について活発な議論が行われました。

冒頭で吉田学長は日印学術協働の重要性について講演し、リム副学長からは岐阜大学の国際展開やジョイント・ディグリープログラム(JDP)、インドとの教育研究連携の成果が紹介されました。

また、シンポジウム内のラウンドテーブルでは、岐阜大学、IITG および北東インドの大学を含む計 21 大学による「北東インド・日本大学連携コンソーシアム(NER-Japan International Academic and Research Consortium)」設立に向けた意向表明書(Lol)の署名式が行われました。岐阜大学は日本側の調整機関として位置付けられ、IITG と連携しながら大学・政府・産業界をつなぐ役割を担います。

岐阜大学はこれまで、日本で唯一 IITG との JDP を運営し、10 年以上にわたり北東インドを中心とした教育・研究交流を推進してきました。今回の Lol 署名は、これまでに培ってきた協力関係をさらに発展させ、地域開発や産業界との連携へと広げる新たな節目となります。

午後の学術セッションでは、吉田学長が医療・生命科学分野における研究成果と国際共同研究の展望を紹介し、高い関心を集めました。さらに、アッサム州政府主催のバンケットには日本学術振興会(JSPS)、科学技術振興機構(JST)、国際協力機構(JICA)、日本貿易振興機構(JETRO)、日本企業関係者らとともに出席しました。アッサム州政府関係者や現地の大学・産業界関係者との意見交換では、岐阜大学が日本と北東インドを結ぶ学術交流のハブとして重要な役割を果たしていることが改めて確認されました。



駐日東ティモール民主共和国大使らが岐阜大学を訪問

5月19日



2026年5月19日、駐日東ティモール民主共和国大使館より、Maria Terezinha da Silva Viegas 大使、Faviola Henriques da Cruz 財務経理担当官、Ana Catarina Moreira da Costa Fragoso アシスタントの一行が岐阜大学を訪問しました。本学からはリム リーフ副学長のほか、東ティモールからの留学生を多く受け入れている工学部の久米教授、大谷教授、田村准教授、深井准教授が出席し、岐阜大学と東ティモール民主共和国との交流の現状および国際的な教育・研究活動のさらなる推進・拡大について意見交換を行いました。

また、翌5月20日には本学において、学生との交流イベントが開催されました。今回の駐日東ティモール民主共和国大使館の訪問を通じ、本学は同国との交流および連携を一層深化させ、教育・研究分野におけるさらなる発展を目指していきます。



Welcome & Connect を開催

6月10日



グローバル推進機構は、2026年6月10日にTOIC棟プレゼンテーションエリアにおいて、交流イベント「Welcome & Connect」を開催しました。

本学では、令和7年度に採択された「大学の世界展開力強化事業」に関連して、インド工科大学グワハティ校(IITG)との教育連携の実績を活かし、インド人留学生・研究者の生活支援や地域への定着を目指すため、2つのコミュニティを立ち上げました。今回は、この「岐阜-インド・スチューデント・コミュニティ(GI-SC)」および「岐阜インド・サイエンティスト&エンジニア・コミュニティ(GI-SEC)」のメンバー間の交流を目的とした初のイベントとなります。

当日は、本学の修生である株式会社メニコンのHritaban Acharya氏および本学高等研究院のRaj Kishan Agrahari特任助教を登壇者としてお招きし、学生時代の経験や日本企業・機関で働く現在のキャリアについての発表を実施しました。参加した学生、教職員による自己紹介セッションも行われ、インド人学生・研究者14名を含む36名の日印の学生・研究者・企業関係者が立場や専門分野を越えて交流し、終始活発で和やかな雰囲気の中で進行了しました。

参加者からは「日本で外国人として働く体験談を多く聞くことができ、よいモチベーションになった」「インドと日本のつながりについて視野が広がった」といった感想が寄せられ、次回開催を期待する声も多く聞かれました。本イベントは、インド人学生・研究者の支援のための持続的なコミュニティ形成に向けた重要な第一歩となり、今後の発展が期待されます。



先輩からのメッセージ

日本留学からアカデミック・キャリアへの道



私はインド北東部のアッサム州出身です。約9年前に来日して以来、日本で学びと研究を続けてきました。岐阜大学では文部科学省(MEXT) 奨学金留学生として博士課程を修了し、その後は東京大学でJST-CREST 研究員や日本学術振興会(JSPS) 特別研究員(PD)として研究に取り組みました。2026年4月に岐阜大学特任助教に着任し、現在は「IT-GEEx」プログラムのフェローとしても研究を進めています。専門は植物分子生物学とバイオインフォマティクスで、植物の養分吸収や環境ストレスへの適応機構の解明を目指しています。日本での留学・研究生活を通じて得た多くの学びや出会いは、私にとって大きな財産です。これまで支えてくださった方々への感謝を胸に、今後も教育・研究を通じて社会に貢献していきたいと考えています。



アグラハリ ラジ キシャン

岐阜大学 高等研究院G-YLC特任助教
(岐阜大学連合農学研究科博士課程
2023年修了)



岐阜大学

グローバル推進機構

編集・発行：岐阜大学グローバル推進機構 E-mail: kokusaik@t.gifu-u.ac.jp

事務局：岐阜大学学務部国際事業課国際総務室(国際交流に関すること)

TEL:058-293-3351 E-mail: int_exch@t.gifu-u.ac.jp

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室(留学に関すること)

TEL:058-293-2142 E-mail: direcent@t.gifu-u.ac.jp



岐阜大学

岐阜大学国際交流 NEWS Letter

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/data/newsletter/index.html>

GU-GLOCAL Channel

<https://www.youtube.com/channel/UCMjkzg04fsxzo3ogeNHC-PA>

